

エアリーフローラ栽培における簡易な凍害防止対策

1 背景・目的

エアリーフローラの凍害による品質低下や出荷率低下が問題となっている。簡易な凍害防止技術である畝の被覆について、凍害防止効果の高い被覆資材を検討する。



図1 凍害を受けた蕾

2 技術のポイント

- (1) エアリーフローラ栽培農家が畝の被覆資材として一般に導入しているスーパーパスライトに比べて、ラブシートは降霜日の気温低下の抑制効果が高く、植物体温度の低下を抑制できるため、凍害発生株率を大幅に抑制できる(表)。
- (2) ラブシートで畝を被覆することで、開花日を無被覆より10日早めることができる(表)。

表 畝被覆資材が気温等に及ぼす影響

試験区	降霜時の 気温 (°C)	降霜時の 植物体温度 (°C)	氷点下日数 (日)		凍害発生株率 (%)		平均 開花日 (日)
			H27	H26	H27	H26	
			ラブシート	0.3	-1.2	0	
スーパーパスライト	0.0	-3.4	1	3	6.8	33.0	4月7日
無被覆	-0.5	-5.2	7	8	25.8	50.0	4月11日

※ラブシート：ポリエステル系の不織布の片面に特殊アクリル樹脂をコーティングした資材
 ※スーパーパスライト：ポリエステル系不織布にポリエチレン織布を組み合わせた資材
 ※植物体温度：放射温度計で植物体上部を測定



図2 ラブシートの被覆状況

3 成果の活用と留意点

畝を被覆すると温度が上がりやすく、曲りなどの品質低下につながる可能性がある。そのため、晴天時には被覆資材をめくるなどの温度管理が必要である。

問合先：園芸栽培グループ TEL 076-257-6911
 担当者：平野春菜・村濱 稔